

2. 地域別での公共施設に係る実態把握・分析

ここでは、地域別の公共施設の設置状況や利用状況、今後の地区別の人口動態の変化を踏まえて、実態把握・分析を行いました。

対象とする地域名を以下に示します。

番号	地域名	連合自治会 (地区名)		
(1)	中央	緑		
		新玉		
		万年		
		幸		
		十字		
		足柄		
		芦子		
		二川		
		久野		
		大窪		
		早川		
		山王網一色		
		(2)	富水・桜井	東富水
				富水
桜井				
(3)	川東南部	下府中		
		国府津		
		酒匂・小八幡		
(4)	川東北部	豊川		
		上府中		
		下曾我		
		曾我		
(5)	片浦	片浦		
(6)	橋	橋南		
		橋北		

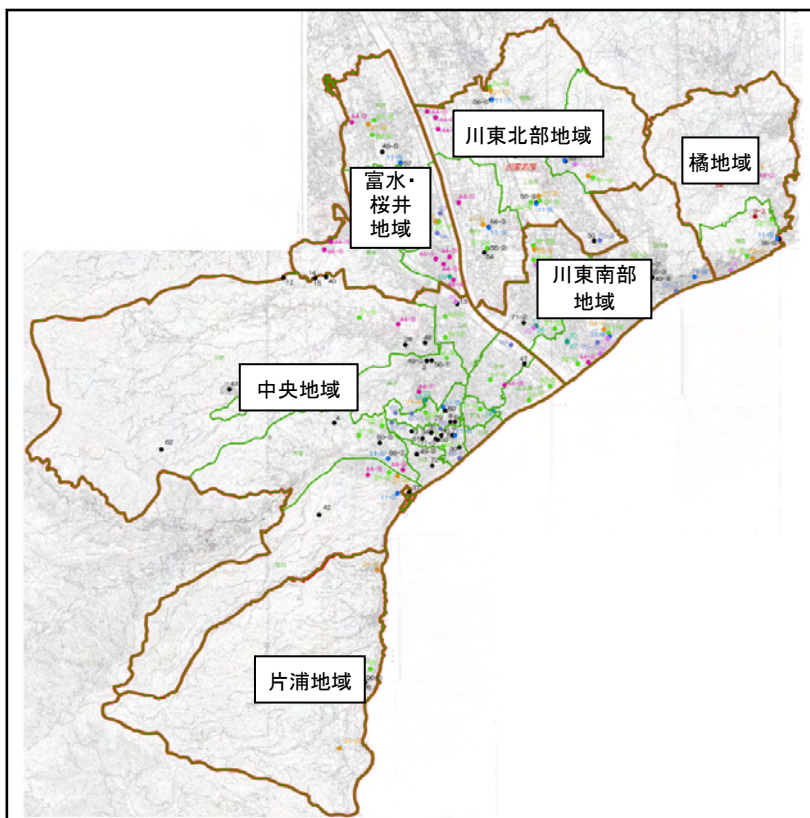


図 市内の地域の位置図

(1) 中央地域

1) 人口の動向

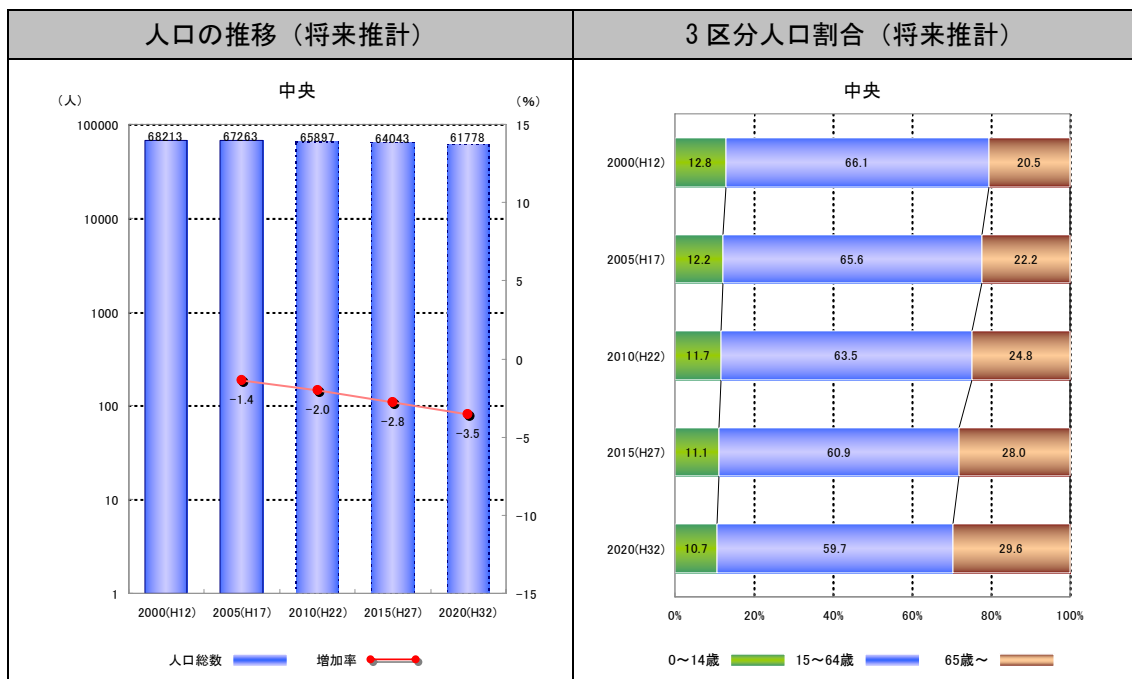
中央地域については、市全体の傾向と同様に、将来的に人口減少が予想されています（平成12年→平成32年で6,435人減（9.4%減））。

年少人口についても、市全体の傾向と同様に、少子化の緩やかな進行が予想されます（年少人口比率：12.8%（H12）→10.7%（H32））。

老年人口についても、市全体の傾向と同様に、今後の高齢化の進行が予想されます（老年人口比率：20.5%（H12）→29.6%（H32））。

なお、地区別にみると、幸地区で人口の若干の増加傾向があること（平成12年から平成32年の人口増減率：10.7%増）や、大窪地区、早川地区で高齢化率が比較的高いことが特徴として挙げられます。

表 中央地域の人口動向



注) 将来人口については、国勢調査データ（平成12年度及び平成17年度）に基づくコーホート変化率法による推計結果を掲示。
（以下、各地域で同様）

2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、市役所本庁舎、市民会館、支所・住民窓口等（4施設）、社会福祉関連施設（3施設）、保育所（2施設）小田原城址公園などの観光・文化施設（7施設）、市営住宅（5施設）、市立病院、消防署（2施設）、学校施設（小学校9施設、中学校4施設）、生涯学習センター（2施設）、スポーツ施設（6施設）、図書館など、合計71施設があります。

小田原駅を中心とした緑地区、幸地区、芦子地区に、市役所本庁舎や、窓口サービス施設、市民会館、生涯学習センター本館、図書館等の市民利用施設、小田原城址公園等の観光文化施設など、多くの施設が配置されています。

また、中央地域の西部には、いこいの森、辻村植物公園などの公園・緑地施設が整備されて

います。

市営住宅については、中央地域内のそれぞれ5箇所に点在して整備されています。

学校施設については、概ね地区ごとに小学校が各1校整備されています(緑地区、万年地区、十字地区は小学校無し)。中学校についても、中央地域内の中心部や北部、東部に4校が整備されています。

郷土文化館、松永記念館(郷土文化館分館)は、郷土の歴史・文化等に関連する資料の収集・展示等を行っており、小田原城址公園内、大窪地区にそれぞれ整備されています。

スポーツ施設については、地域の中心部に城山陸上競技場、庭球場(2施設)、城内弓道場が整備されているほか、酒匂川右岸沿いに酒匂川スポーツ広場が、海岸沿いに御幸の浜プールが整備されています。

なお、市民会館、大窪支所、社会福祉センター、市営住宅(5施設)、小学校(三の丸小学校、大窪小学校を除く7施設)、中学校(4施設)、図書館(星崎記念館)などの施設については、ほとんどの施設が築後30年以上を経過しており、施設の老朽化が進んでいます。また、大窪支所、社会福祉センター、図書館(星崎記念館)については、耐震化が行われていないことから、施設の安全性の確保が課題となります。

3) 施設の利用状況

市民会館は、ホールのイベント利用、貸室の団体利用等で、年間で約24万人に利用されており、特にホールや多目的室の稼働率が比較的高くなっています。

また、国際交流ラウンジや市民活動サポートセンター、女性プラザなど、小田原駅近傍で利便性の高いことなどから、貸室の稼働率が他の施設と比較して高くなっています。

支所・住民窓口等(大窪支所、早川支所、中央連絡所、アークロード市民窓口)については、年間の窓口取扱件数でそれぞれ約2.6万件、1.2万件、5.0万件、7.9万件の利用があり、特に小田原駅内に設置されているアークロード市民窓口の利用が多くなっています。

社会福祉センターについては、年間で約5万人が利用しており、利用者数も増加傾向にあります。

小田原城址公園については、年間で約206万人と多くの方が訪れており、公園内の天守閣、歴史見聞館、郷土文化館もそれぞれ年間で約39万人、9万人、5万人が利用しています。また、松永記念館(郷土文化館分館)についても、年間で約2万人が利用しています。加えて、子供の森「わんぱくらんど」についても、年間で約31万人と多くの方が利用しています。

市営住宅については、いずれも入居戸数が50戸未満の小規模な住宅規模となっています。

市立病院は、神奈川県西部地域における基幹総合病院として、延べ患者数で年間37万人が利用しています。

学校施設(小学校9施設、中学校4施設)は、全体として近年で大きな児童数・生徒数の増減は生じていません。

生涯学習センターについては、本館「けやき」は年間で約16万人と多くの方が利用しています。一方で、大窪分館については、ほとんど利用者がいない状況となっています。

スポーツ施設について、城山陸上競技場は、大会利用や一般利用等で年間約10万人が利用しており、ここ数年は同程度の利用で推移しています。また、近傍の城山庭球場、小峰庭球場

もそれぞれ年間で約 2.1 万人、4 千人の利用があります。御幸の浜プールについては、夏期利用のみで年間約 1.1 万人が利用しています。城内弓道場は、年間約 7 千人の利用があり、稼働率も約 7 割と他の施設と比較して高くなっています。酒匂川スポーツ広場については、野球場やサッカー場利用等で、年間約 19 万人が利用しており、他のスポーツ施設と比較して利用者数の増加が近年顕著になっています。

図書館（星崎記念館）については、市内 2 箇所の公立図書館の一つとして、年間で約 7 万冊の貸出利用があり、近年は貸出冊数の増加傾向がみられます。

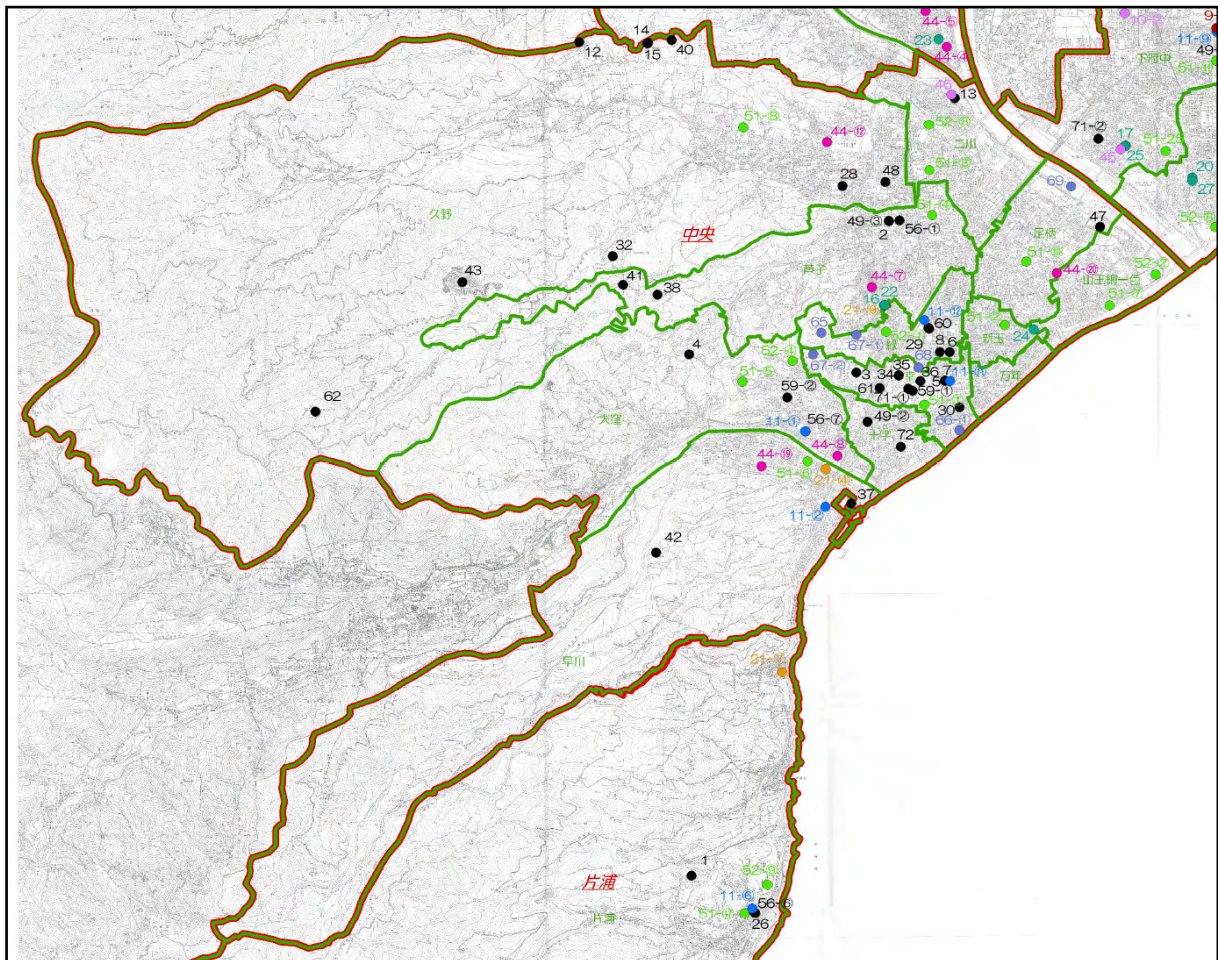


図 中央地域の施設配置状況

表 中央地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
2	市役所本庁舎	S51.6	23,463	—	—	—	—
3	競輪場	S24.8	(47,970)	177,179 (入場者数)	-23.1%	—	—
4	サンサンヒルズ小田原	H7.3	3,201	7,982	-17.9%	40.8	4.9%
5	市民会館	S37.7	8,714	242,309	-5.2%	37.1	-5.6%
6	国際交流ラウンジ	—	147	5,106	4.9%	24.5	9.4%
7	市民活動サポートセンター	—	295	11,764	-0.3%	63.0	-0.2%
8	女性プラザ	—	66	4,517	11.4%	86.4	10.3%
11-1	大窪支所	S3.10	264	25,802 (窓口取扱件数)	-1.6%	—	—
11-2	早川支所	—	30	11,811 (窓口取扱件数)	-5.3%	—	—
11-11	中央連絡所	—	43	49,603 (窓口取扱件数)	-8.8%	—	—
11-12	アークロード市民窓口	—	30	78,907 (窓口取扱件数)	-0.4%	—	—
12	斎場	S46.12	1,450	3,259 (火葬件数)	13.2%	—	—
13	扇町クリーンセンター	H2.3	803	—	—	—	—
14	清掃工場	S54.6	7,953	—	—	—	—
15	リサイクルセンター	H9.3	1,471	—	—	—	—
16	社会福祉センター	S49.1	3,306	51,613	5.3%	48.6	1.8%
21-4	早川保育園	S53.3	753	1,315 (児童数)	2.2%	—	—
21-9	城山乳児園	—	647	485 (児童数)	-5.1%	—	—
22	障害児通園施設 「つくしんぼ教室」	—	432	3,996 (利用児童数)	-4.5%	—	—
24	障害者地域作業所 「ありんこホーム作業所」	H3.3	85	2,707 (利用者数)	22.0%	—	—
28	勤労者会館	S52.3	233	829	3.0%	20.5	22.9%
29	起業家支援センター	—	479	5 (入居団体数)	-16.7%	60.7	-13.8%
30	なりわい交流館	H13.9	148	24,382 (入館者数)	-10.3%	—	—
32	いこいの森	S57.5	(270,000)	27,599 (入場者数)	4.6%	36.9	21.4%
34	小田原城址公園	—	(111,990)	2,062,000 (入込観光客数)	-15.1%	—	—
35	小田原城天守閣	S35.5	2,268	388,971 (入場者数)	2.8%	54.4	-15.3%
36	小田原城歴史見聞館	S4.7	483	85,549 (入場者数)	-7.8%	—	—
37	公設水産地方卸売市場 (水産市場)	S43.1	8,403	—	—	—	—
38	辻村植物公園	—	(46,487)	—	—	—	—
40	小田原フラワーガーデン	H5.4	(42,188)	23,308 (入館者数)	17.2%	9.6	19.9%
41	小田原こどもの森公園 「わんぱくらんど」	H12.4	(50,319)	309,005 (入園者数)	13.1%	—	—
42	石垣山一夜城歴史公園	—	(58,133)	—	—	—	—
43	久野霊園	H2	(83,200)	2,700 (契約区画数)	0.0%	—	—
44-7	市営谷津住宅	S34.3	1,180	31 (入居戸数)	0.0%	96.9 (入居率)	0.0%
44-8	市営福井島住宅	S33.12	1,755	25 (入居戸数)	-7.4%	78.1 (入居率)	-7.4%
44-12	市営久野住宅	S39.3	2,449	47 (入居戸数)	9.3%	97.9 (入居率)	9.3%
44-19	市営早川住宅	S44.4	724	13 (入居戸数)	-18.8%	81.3 (入居率)	-18.8%
44-20	市営東町住宅	S56.3	933	11 (入居戸数)	-8.3%	91.7 (入居率)	-8.3%

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
46	多古しらさぎ会館	—	1,006	15,723	7.3%	—	—
47	寿町終末処理場	S41.9	5,227	—	—	—	—
48	市立病院	S58.3	23,562	366,597 (延べ患者数)	-11.1%	—	—
49-2	南分署(消防署分署)	H18.9	1,471	—	—	—	—
49-3	北分署(消防署分署)	—	279	—	—	—	—
51-1	三の丸小学校	H7.12	9,599	572 (児童数)	0.5%	—	—
51-2	新玉小学校	S40.3	5,317	265 (児童数)	-4.0%	—	—
51-3	足柄小学校	S47.12	6,929	499 (児童数)	-3.5%	—	—
51-4	芦子小学校	S44.3	8,291	607 (児童数)	-0.7%	—	—
51-5	大窪小学校	H6.3	7,470	291 (児童数)	3.2%	—	—
51-6	早川小学校	S39.3	4,336	214 (児童数)	-6.1%	—	—
51-7	山王小学校	S45.3	4,508	218 (児童数)	-7.2%	—	—
51-8	久野小学校	S33.3	4,528	345 (児童数)	4.2%	—	—
51-10	町田小学校	S42.1	5,416	331 (児童数)	-2.1%	—	—
52-1	城山中学校	S46.3	8,478	330 (生徒数)	10.7%	—	—
52-2	白鷗中学校	S35.9	6,528	374 (生徒数)	-9.4%	—	—
52-3	白山中学校	S31.9	8,318	615 (生徒数)	0.7%	—	—
52-4	城南中学校	S37.10	3,832	220 (生徒数)	0.5%	—	—
56-1	生涯学習センター 本館「けやき」	S55.11	6,478	156,067	14.9%	58.7	1.6%
56-7	生涯学習センター 大窪分館	—	64	27	—	0.1	—
59-1	郷土文化館	S20	1,112	50,774 (入館者数)	-0.4%	21.1	-11.0%
59-2	松永記念館(郷土文化館 分館)	S34.8	800	20,492 (入館者数)	3.6%	10.1	-6.9%
60	市民学習フロア	—	478	17,316	-1.1%	47.3	28.1%
61	青少年相談センター	S33.2	323	—	—	—	—
62	塔ノ峰青少年の家	S39.9	1,077	2,590	-16.4%	8.4	12.4%
65	城山陸上競技場	S59.6	(44,298)	99,734	9.1%	23.3	0.9%
66-1	御幸の浜プール	S45.7	(4,052)	11,620 (入場者数)	0.5%	—	—
67-1	城山庭球場	S62.3	(12,363)	21,067	10.4%	32.8	18.3%
67-2	小峰庭球場	H1.5	(2,400)	4,313	2.4%	26.8	9.4%
68	城内弓道場	H17.3	(1,082)	6,571	-2.3%	71.4	—
69	酒匂川スポーツ広場	H9.3	(97,816)	187,133	49.9%	—	—
71	図書館(星崎記念館)	S34.11	2,363	69,678 (貸出冊数)	13.5%	—	—
72	文学館	S12	625	8,256 (入場者数)	-15.8%	—	—

※国際交流ラウンジは、栄町駐車場内に設置されている。
※市民活動サポートセンター、中央連絡所は、市民会館内に設置されている。
※女性センターは、音羽プラザビル内に設置されている。
※早川支所は、かながわ西湘農業協同組合早川支店内に設置されている。
※アーケロード市民窓口は、小田原駅アーケロード自由通路内に設置されている。
※障害児通園施設「つくしんぼ教室」、城山乳児園は、社会福祉センター内に設置されている。
※北分署(消防署分署)は、市役所本庁舎内に設置されている。
※生涯学習センター大窪分館は、大窪支所内に設置されている。
※起業家支援センター、市民学習フロアは小田原駅前ビル内に設置されている。
※郷土文化館、図書館(星崎記念館)は、小田原城址公園内に設置されている。

4) 課題等

- 中央地域では、小田原駅を中心として、余暇活動や生涯学習のための施設等が多く配置されています。一方で、地域での高齢化の進行や余暇活動等への将来的な市民ニーズの向上の可能性などを踏まえれば、地域や地区単位での団体活動やコミュニティ形成のための場が不足していることが課題となります。
- 市民会館、社会福祉センターは、市民のレクリエーションや社会福祉機能、及び生涯学習等の中心施設として地域住民や市民に多く利用されていますが、施設規模が比較的大きく、建物や設備等の老朽化が著しいことから、建物・設備などの修繕・更新費が将来的に増大していくことが懸念されます。
- 図書館（星崎記念館）及び郷土文化館は、史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想の長期計画の中で移転施設として位置付けられています。
- 大窪支所は、施設が築後 50 年以上を経過しており、耐震化も未実施であり、また、早川支所は賃借した施設であり、面積も狭いことから、サービスの継続については検討が必要です。
- 市営住宅（5 施設）については、いずれも築後 30 年以上を経過していることから、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されます。また、入居者の高齢化とともに地域全体での高齢化の進行が予想されることから、今後の高齢化の動向を見据えて、将来的にバリアフリー化の対応や高齢居住者のための地域サービスの充実等を見据えた対応を図っていくことが課題です。なお、市営福井島住宅、市営早川住宅では、施設の老朽化等により、建替えや住戸改善が課題となります。
- 郷土文化館、松永記念館（郷土文化館分館）については、郷土の歴史・文化等に関する資料の収集保管・展示施設として、多くの市民に利用されていますが、それぞれ昭和 20 年、昭和 34 年に建築されていることもあり建物や設備等の老朽化が著しいことから、建物・設備などの修繕・更新費が将来的に増大していくことが懸念されます。
- 生涯学習センター本館「けやき」は、地域住民を中心に多く利用されており、利用者も増加傾向にあります。一方で、生涯学習センター大窪分館については、現状で利用者がほとんどいないことから、将来的な施設のあり方の見直しが課題です。

(2) 富水・桜井地域

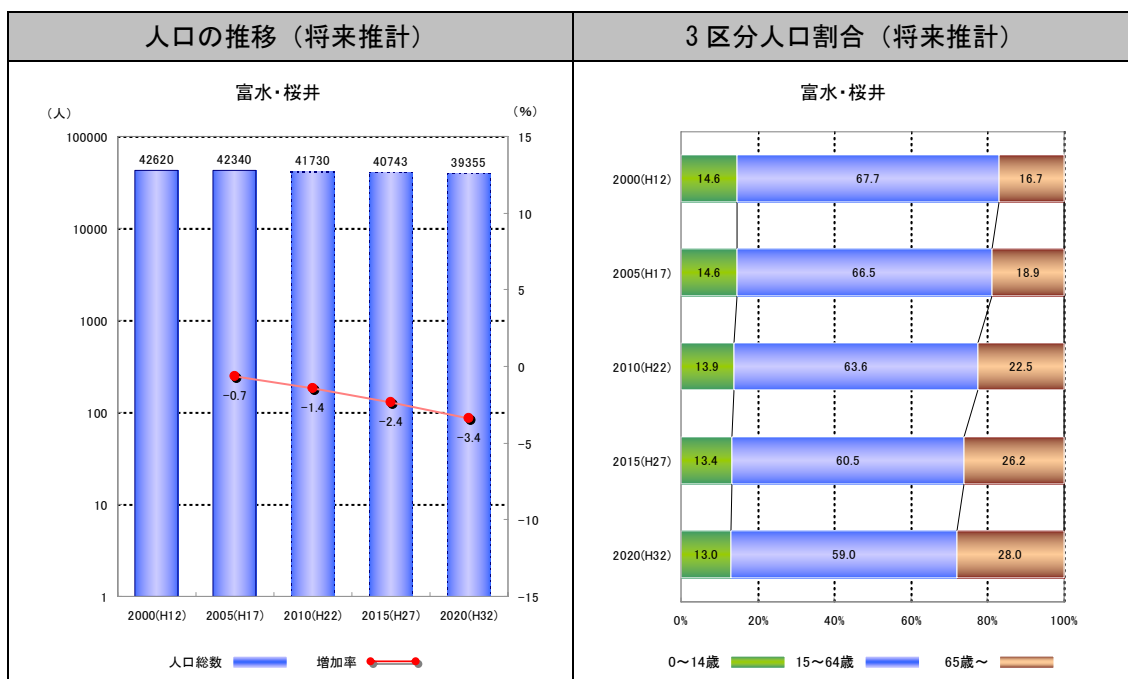
1) 人口の動向

富水・桜井地域については、市全体の傾向と同様に、将来的に人口減少が予想されています（平成12年→平成32年で3,265人減（7.7%減））。

年少人口についても、市全体の傾向と同様に、少子化の緩やかな進行が予想されます（年少人口比率：14.6%（H12）→13.0%（H32））。

老年人口についても、市全体の傾向と同様に、今後の高齢化の進行が予想されます（老年人口比率：16.7%（H12）→28.0%（H32））。

表 富水・桜井地域の人口動向



2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、地域センター（1施設）、住民窓口（2施設）、保育所（1施設）、社会福祉関連施設（1施設）、市営住宅（9施設）、消防署（1施設）、学校施設（小学校4施設、中学校2施設）、幼稚園（2施設）、観光・文化施設（1施設）、スポーツ施設（2施設）の合計26施設があります。

地域センター（城北タウンセンター「いずみ」）は、地域内のほぼ中心部に整備されています。また、住民窓口も地域センター、尊徳記念館内にそれぞれ1箇所設置されています。なお、市民集会施設等の地域集会施設は地域内に設置されていません。

市営住宅については、酒匂川の右岸沿いに多く整備されており、東富水地区に4施設、富水地区に2施設、桜井地区に3施設が整備されています。

学校施設についても同様に、概ね地区ごとに小学校が各1校整備されています（富水地区は小学校が2施設）。中学校についても、富水地区、桜井地区にそれぞれ1校整備されています。また、幼稚園についても、東富水地区、富水地区にそれぞれ1園整備されています。

スポーツ施設（小田原アリーナ、小田原テニスガーデン）については、東富水地区内の酒匂川右岸沿いに整備されています。

なお、保育所（1施設）、社会福祉関連施設（1施設）、市営住宅（9施設）、小学校（4施設）、中学校（2施設）、幼稚園（2施設）、観光・文化施設（1施設）については、ほとんどの施設が築後20～30年以上を経過しており、施設の老朽化が進んでいます。

3) 施設の利用状況

城北タウンセンター「いずみ」は、市内3箇所の地域センターの一つとして、年間約4.2万人と、地域住民を中心に多くの人々が利用しています。また、貸室の稼働率も6割を超えており、他の貸室を実施している施設と比較して高い割合となっています。

住民窓口等（いずみ住民窓口、桜井窓口コーナー）については、年間の窓口取扱件数でそれぞれ約7.8万件、1.6万件の利用があり、いずみ住民窓口の利用が多くなっています。一方、桜井窓口コーナーについては、近年利用者が減少傾向にあります。

障害者自立支援施設「梅香園」は、障害者の生活介護等の支援サービス施設として、年間で延べ約1万人の通所利用があります。

市営住宅については、最も管理戸数の多い市営螢田住宅で355戸に入居しているほか、地域内の多くの住宅では概ね50～140戸の入居となっており、入居率も9割を超えています。また、地域全体での市営住宅の入居戸数は、977戸となっています。

学校施設（富水小学校、桜井小学校、東富水小学校、報徳小学校、泉中学校、城北中学校）は、近年で大きな児童数・生徒数の増減は生じていません。また、幼稚園（東富水幼稚園、報徳幼稚園）については、園児の若干の減少傾向がみられます。

尊徳記念館については、市内の観光・文化施設の一つとして歴史資料の展示や社会教育活動の場の提供などを行っており、年間約9万人が利用していますが、利用者数や稼働率とも近年は減少傾向がみられます。

スポーツ施設（小田原アリーナ、小田原テニスガーデン）については、小田原アリーナは市内唯一の総合体育館として、年間で約27万人と多く利用されており、稼働率も市内の他のスポーツ施設と比較して高い割合となっています。また、小田原テニスガーデンについても、年間で約13万人の利用があり、稼働率も5割を超えています。

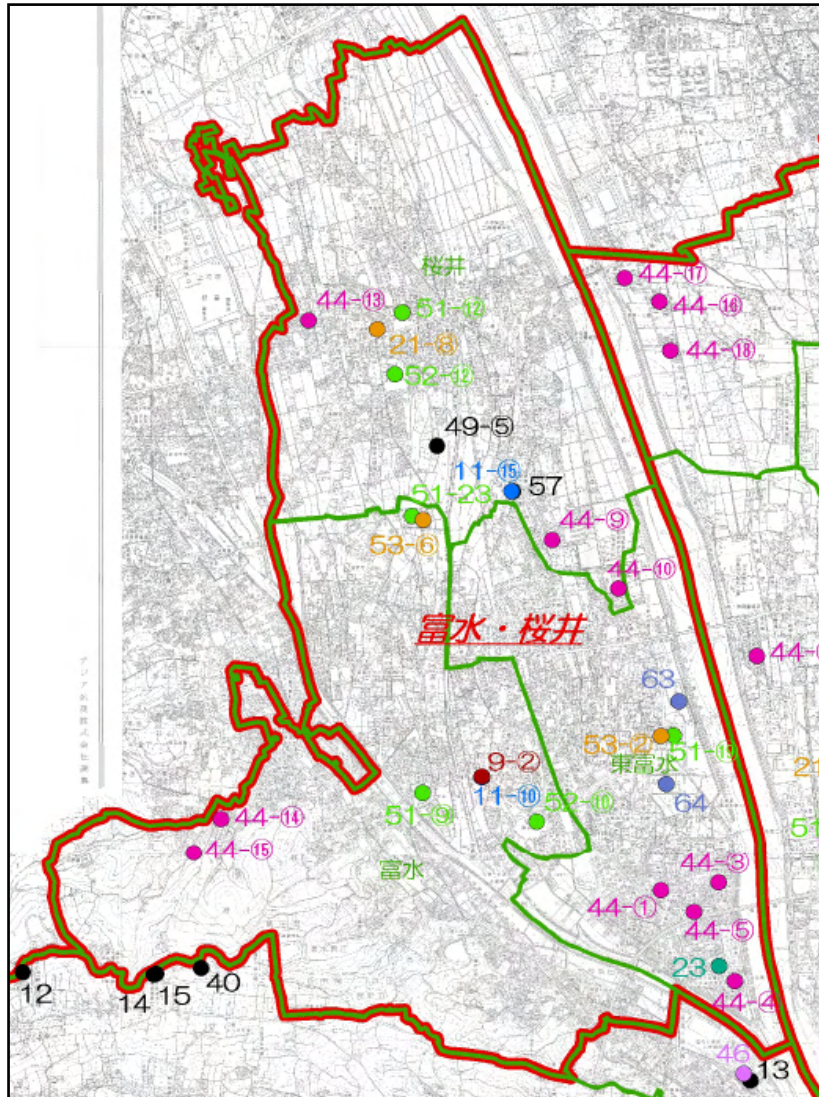


図 富水・桜井地域の施設配置状況

表 富水・桜井地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
9-2	城北タウンセンター「いずみ」	H17.8	1,188	41,555	26.5%	66.1	19.5%
11-10	いずみ住民窓口	—	44	78,024 (窓口取扱件数)	-2.3%	—	—
11-15	桜井窓口コーナー	—	66	15,502 (窓口取扱件数)	-19.1%	—	—
21-8	桜井保育園	S57.4	823	1,662 (児童数)	9.6%	—	—
23	障害者自立支援施設「梅香園」	S57.3	1,017	10,068 (利用者数)	-7.6%	—	—
44-1	市営蓮正寺住宅	S53.3	7,994	138 (入居戸数)	1.5%	98.6 (入居率)	1.5%
44-3	市営螢田住宅	S46.3	17,595	355 (入居戸数)	-1.4%	95.9 (入居率)	-1.4%
44-4	市営かすみのせ住宅	S56.3	7,507	106 (入居戸数)	-0.9%	96.4 (入居率)	-0.9%
44-5	市営葎田住宅	S51.2	5,374	96 (入居戸数)	1.1%	98.0 (入居率)	1.1%
44-9	市営栢山住宅	S35.5	843	21 (入居戸数)	-8.7%	84 (入居率)	-8.7%
44-10	市営柳町住宅	S61.12	8,966	131 (入居戸数)	0.8%	97.8 (入居率)	0.8%
44-13	市営浅原住宅	H4.8	5,448	74 (入居戸数)	-1.3%	97.4 (入居率)	-1.3%
44-14	市営久所住宅	S39.3	389	8 (入居戸数)	-11.1%	66.7 (入居率)	-11.1%
44-15	市営仲沢住宅	S40.3	1,925	48 (入居戸数)	2.1%	92.3 (入居率)	2.1%
49-5	城北分署(消防署分署)	S63.3	814	—	—	—	—
51-9	富水小学校	S41.3	9,415	710 (児童数)	-4.2%	—	—
51-12	桜井小学校	S42.2	7,623	637 (児童数)	-6.5%	—	—
51-19	東富水小学校	S45.3	6,274	686 (児童数)	-7.0%	—	—
51-23	報徳小学校	S52.3	5,830	587 (児童数)	10.1%	—	—
52-10	泉中学校	S42.3	7,035	686 (生徒数)	1.0%	—	—
52-12	城北中学校	S50.3	8,226	492 (生徒数)	1.4%	—	—
53-2	東富水幼稚園	S46.3	823	112 (園児数)	-15.2%	—	—
53-6	報徳幼稚園	S53.5	635	62 (園児数)	-11.4%	—	—
57	尊徳記念館	S63.3	3,912	90,364	-28.1%	46.7	-9.0%
63	総合文化体育館「小田原アリーナ」	H8.10	16,200	270,347	-7.9%	45.5	-6.1%
64	小田原テニスガーデン	H9.6	(17,010)	128,464	-6.7%	52.7	2.2%

※いずみ住民窓口は、城北タウンセンター「いずみ」内に設置されている。

※桜井窓口コーナーは、尊徳記念館内に設置されている。

4) 課題等

- 地域センターは、地域住民を中心に多く利用されており、利用者も増加傾向にあります。一方で、地域内に他の集会施設や生涯学習施設がないことから、今後の高齢化の進行や、余暇・レクリエーション活動への将来的なニーズ等を考慮すれば、地域センターのみで地域住民の活動の場を確保することが難しくなるケースも想定されることから、将来的な市民ニーズの動向を踏まえて既存施設の余剰スペースの利活用や転用などにより地域コミュニティ単位での活動の場を拡充していくことが課題となります。
- 市営住宅（9施設）については、入居率が9割を超えていますが、市営浅原住宅を除いて築後20～30年以上を経過していることから、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されます。また、地域全体での市営住宅の入居戸数が977戸（平成20年度）と多い地域であり、入居者の高齢化とともに地域全体での高齢化の進行が予想されることから、今後の高齢化の動向を見据えて、将来的にバリアフリー化の対応や高齢居住者のための地域サービスの充実等を見据えた対応を図っていくことが課題となります。
- 学校施設（小学校、中学校）については、耐震化対応は実施済ですが、ほぼすべての施設が築後30年以上を経過しており、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されることや、地域での少子化の進行により余裕教室等が発生してくることも想定されることから、施設の効率的な管理とともに、将来的な少子化の動向を考慮した学校施設の統廃合等による施設・サービスの見直しを図っていくことが課題です。
- 幼稚園については、地域全体で少子化の進行が予想されることや、現状で園児数が減少傾向にあることから、公立幼稚園としてのサービスの必要性や、地域ニーズを踏まえて、管理運営の効率化や施設の将来的な廃止も見据えて、施設・サービスの見直しを図っていくことが課題です。
- 尊徳記念館については、利用者数や稼働率とも近年は減少傾向がみられますが、貸室の稼働率は、市内での貸室を実施している他の施設よりも比較的高くなっています。桜井地区を始めとする周辺地域住民の利用の多いことがその要因の一つと考えられ、今後もこれら地域住民のニーズに応じた活動の場の提供などにより、施設の有効活用を図っていくことが課題となります。

(3) 川東南部地域

1) 人口の動向

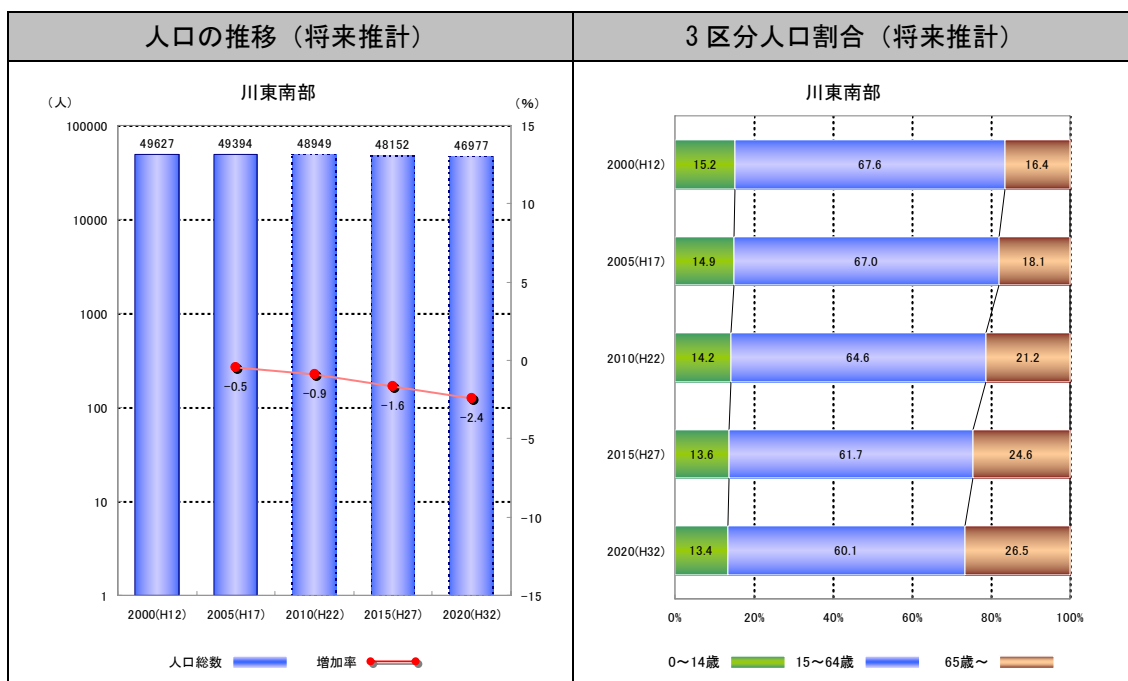
川東南部地域については、市全体の傾向と同様に、将来的に減少傾向が予想されています(平成12年→平成32年で2,650人減(5.3%減))。

年少人口については、市全体での少子化の傾向と同様に、少子化の緩やかな進行が予想されます(年少人口比率:15.2%(H12)→13.4%(H32))。

老年人口については、国府津地区では高齢化の進行が比較的緩やかですが、地域全体としては今後の高齢化の進行が予想されます(老年人口比率:16.4%(H12)→26.5%(H32))。

なお、地区別にみると、国府津地区については、将来的に人口の緩やかな増加が見込まれており(平成12年→平成32年で1,885人増(3.1%増))、年少人口の若干の増加傾向が見込まれています(年少人口比率:13.9%(H12)→15.9%(H32))。

表 川東南部地域の人口動向



2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、地域センター(1施設)、地域集会施設(3施設)、住民窓口(3施設)、社会福祉関連施設(4施設)、青果卸売市場、市営住宅、消防署(2施設)、学校施設(小学校5施設、中学校3施設)、幼稚園(2施設)、生涯学習センター(1施設)、スポーツ施設(2施設)、図書館など、合計31施設があります。

地域センター(川東タウンセンター「マロニエ」)、地域集会施設(酒匂市民集会施設、下府中市民集会施設、小田原市集会所)など、地域住民の集会や団体活動に利用可能な施設が、地区ごとに複数整備されています。

住民窓口施設(3施設)についても、地区ごとに1施設が整備されています。

学校施設についても同様に、地区ごとに小学校・中学校が各1校(下府中地区は小学校が2箇所)整備されています。

社会福祉関連施設（鴨宮ケアセンター、生きがいふれあいセンター「いそしぎ」、歯科二次診療所、保健センター）についても地域南部の酒匂川左岸沿いにまとまって整備されています。幼稚園については、下府中地区、酒匂・小八幡地区にそれぞれ1園が整備されています。

スポーツ施設（国府津海水プール、鴨宮運動広場）については、海岸沿い近傍に整備されています。

かもめ図書館は、市内の2箇所の公立図書館のうちの一つとして、下府中地区内に整備されています。

なお、市民集会施設（2施設）、市営住宅（1施設）、小学校（5施設）、中学校施設（3施設）、幼稚園（2施設）、生涯学習センター（1施設）については、ほとんどの施設が築後30年以上を経過しており、施設の老朽化が進んでいます。また、酒匂市民集会施設、下府中市民集会施設、生涯学習センター国府津学習館については、耐震化が行われていないことから、施設の安全性の確保が必要となっています。

3) 施設の利用状況

地域センター川東タウンセンター「マロニエ」は、市内最大の地域センターとして、年間約14万人と地域住民を中心に多くの人々が利用しています。貸室の稼働率も6割を超えており、他の貸館施設と比較して高い割合となっています。

地域集会施設のうち、市民集会施設（酒匂市民集会施設、下府中市民集会施設）は、年間でそれぞれ約8千人、1.1万人が利用しており、酒匂市民集会施設では近年利用者の増加傾向がみられます。一方で、小田原市集会所は年間利用者が約2千人にとどまっており、近年は利用者の減少傾向がみられます。

住民窓口等（マロニエ住民窓口、国府津駅前窓口コーナー、酒匂窓口コーナー）については、年間の窓口取扱件数でそれぞれ約19万件、9千件、8千件の利用があり、マロニエ住民窓口の件数が多くなっています。一方、国府津駅前窓口コーナー、酒匂窓口コーナーについては、近年取扱件数が減少傾向にあります。

社会福祉関連施設（鴨宮ケアセンター、生きがいふれあいセンター「いそしぎ」、歯科二次診療所、保健センター）については、それぞれ年間で約9千人、8.8万人、2千人、4.9万人の利用者があり、大きな利用者の増減はみられません。なお、生きがいふれあいセンター「いそしぎ」は集会施設として利用され、保健センターでは健康づくりに関する講習会等の活動の場としても利用されています。

学校施設（下府中小学校、国府津小学校、酒匂小学校、矢作小学校、富士見小学校、鴨宮中学校、国府津中学校、酒匂中学校）は、地域全体としては近年で大きな児童数・生徒数の増減は生じていません。また、幼稚園（酒匂幼稚園、矢作幼稚園）についても、酒匂幼稚園において園児の若干の減少傾向がみられますが、それぞれ100人以上の園児が利用しています。

生涯学習センター国府津学習館については、年間約2.5万人の利用者があり、市内の他の生涯学習センターと比較しても、本館「けやき」に次いで利用数や稼働率が高い数値となっています。

スポーツ施設（国府津海水プール、鴨宮運動広場）については、それぞれ年間で約4千人（夏季期間のみ）、2.0万人の利用者数となっています。なお、鴨宮運動広場については、近年利

用者の減少傾向がみられます。

かもめ図書館については、市内最大の図書館として年間で約43万冊と多くの貸出利用があります。また、視聴覚ホールや集会・展示の場としても地域住民や市民に広く利用されています。

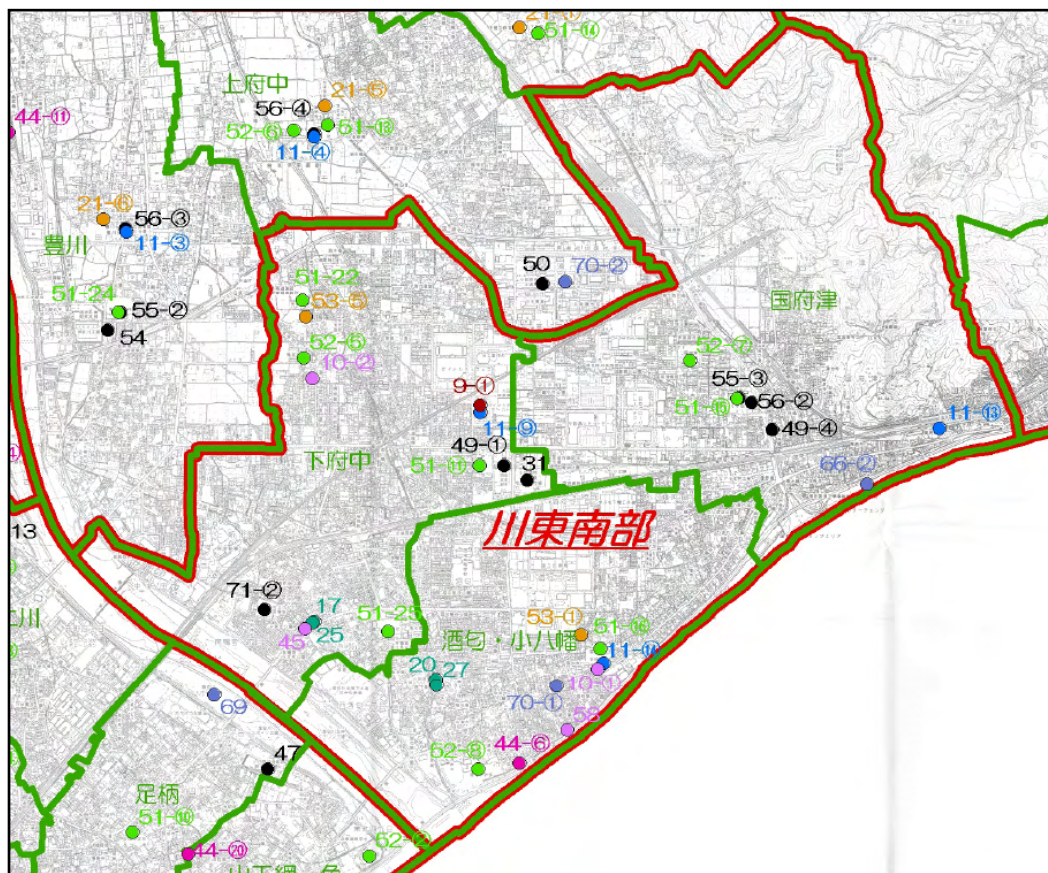


図 川東南部地域の施設配置状況

表 川東南部地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
9-1	川東タウンセンター「マロニエ」	H7.11	8,250	143,274	-5.3%	64.1	-4.3%
10-1	酒匂市民集会施設	S5.10	363	7,765	152.4%	19.6	75.5%
10-2	下府中市民集会施設	S35.10	545	10,633	-18.6%	29.3	-14.0%
11-9	マロニエ住民窓口	—	224	190,735 (窓口取扱件数)	3.0%	—	—
11-13	国府津駅前窓口コーナー	H8.2	109	9,023 (窓口取扱件数)	-21.5%	—	—
11-14	酒匂窓口コーナー	S59.7	33	7,743 (窓口取扱件数)	-15.1%	—	—
17	鴨宮ケアセンター	—	514	8,751	4.6%	—	—
20	生きがいふれあいセンター「いそしぎ」	H4.8	5,312	88,130	-7.7%	28.5	-31.1%
25	歯科二次診療所	H8.3	594	2,032	3.5%	—	—
27	保健センター	S63.10	5,914	49,225	-4.4%	13.7%	-6.3%
31	公設青果地方卸売市場 (青果市場)	S47.11	7,805	—	—	—	—
44-6	市営浜住宅	S56.3	5,111	75 (入居戸数)	0.0%	98.7 (入居率)	0.0%
45	下水道コミュニティホール 「かるがも」	—	307	6,746	11.9%	16.5	14.2%
49-1	消防本部庁舎(本署(消防署))	H6.6	4,289	—	—	—	—
49-4	東分署(消防署分署)	S31.6	221	—	—	—	—
51-11	下府中小学校	S50.7	7,546	446 (児童数)	2.8%	—	—
51-15	国府津小学校	S44.12	7,944	706 (児童数)	4.9%	—	—
51-16	酒匂小学校	S35.7	6,613	517 (児童数)	-5.5%	—	—
51-22	矢作小学校	S48.2	6,877	587 (児童数)	1.4%	—	—
51-25	富士見小学校	S59.12	7,811	766 (児童数)	-5.4%	—	—
52-5	鴨宮中学校	S36.2	7,622	565 (生徒数)	-2.4%	—	—
52-7	国府津中学校	S40.3	5,714	295 (生徒数)	7.3%	—	—
52-8	酒匂中学校	S57.12	9,277	681 (生徒数)	-3.5%	—	—
53-1	酒匂幼稚園	S48.2	1,319	144 (園児数)	-11.1%	—	—
53-5	矢作幼稚園	S49.3	888	137 (園児数)	3.0%	—	—
55-3	国府津学校給食共同調理場	S62.3	728	—	—	—	—
56-2	生涯学習センター 国府津学習館	S53.3	505	24,738	6.1%	41.9	9.5%
58	小田原市集会所	S61.3	132	1,896	-26.2%	12.3	-28.5%
66-2	国府津海水プール	S32.7	(2,000)	4,361 (入場者数)	45.0%	—	—
70-1	鴨宮運動広場	—	(8,750)	19,542	-41.1%	—	—
71-2	かもめ図書館	H6.6	5,657	430,001 (貸出冊数)	-5.3%	31.6	6.0%

※マロニエ住民窓口は、川東タウンセンター「マロニエ」内に設置されている。

※鴨宮ケアセンター、歯科二次診療所、下水道コミュニティホール「かるがも」は県営住宅に併設されている。

※国府津学校給食共同調理場は、国府津小学校内に設置されている。

4) 課題等

- 地域センターは、地域住民を中心に多く利用されています。一方で、地域集会施設のうち、酒匂市民集会施設、下府中市民集会施設、小田原市集会所については、施設が老朽化しており耐震化も未実施であることから、施設の改修などによりサービス機能を将来にわたって確保するための取組が必要となります。
- 住民窓口等のうち、国府津駅前及び酒匂窓口コーナーについては、他の同施設と比較して利用者数が少ないことから、国府津・酒匂・小八幡地区の将来的な人口動向やマロニエ住民窓口の利用状況も踏まえて、将来的な施設・サービスの廃止や移転を視野に入れた機能の見直しを図っていくことが課題です。
- 市営住宅（浜住宅）については、入居率が9割を超えていますが、施設の老朽化が進んでおり、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されることや、入居者の高齢化が進んでいることから、将来的なバリアフリー化等を見据えた対応が課題です。
- 学校施設（小学校、中学校）については、耐震化対応は実施済ですが、ほぼすべての施設が築後30年以上経過しており、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されることや、地域全体での少子化の進行により余裕教室等が発生してくることも想定されることから、施設の効率的な管理とともに、将来的な少子化の動向を考慮した学校施設の有効活用等による施設・サービスの見直しを図っていくことが課題です。

(4) 川東北部地域

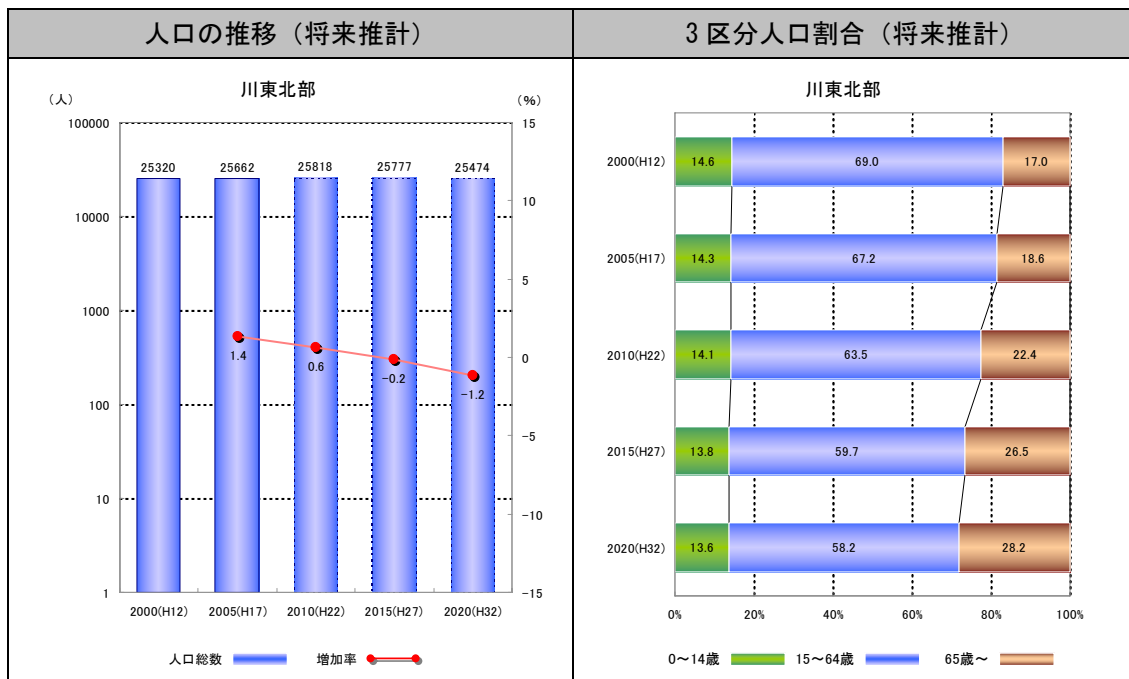
1) 人口の動向

川東北部地域については、人口は概ね横ばいで推移することが予想されます（平成 12 年→平成 32 年で 154 人増（0.6%増）。なお、地区別にみると、曾我地区では他の地区と比較して人口減少が著しくなっており、（平成 12 年→平成 32 年で 749 人減（27.9%減）、上府中地区では将来的に人口の緩やかな増加が見込まれています（平成 12 年→平成 32 年で 1,516 人増（16.7%増））

年少人口については、市全体での少子化の傾向と同様に、少子化の緩やかな進行が予想されます（年少人口比率：14.6%（H12）→13.6%（H32））。

老年人口については、市全体と同様に今後の高齢化の進行が予想されます（老年人口比率：17.0%（H12）→28.2%（H32））。なお、地区別には、特に下曾我地区、曾我地区での高齢化率が高くなっています（下曾我地区の老年人口比率：27.6%（H12）→40.0%（H32）、曾我地区の老年人口比率：21.0%（H12）→40.0%（H32））。

表 川東北部地域の人口動向



2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、下曾我市民集会施設、支所（4 施設）、保育所（4 施設）、梅の里センター（分館含む）、上府中公園、市営住宅（4 施設）、学校施設（小学校 4 施設、中学校 1 施設）生涯学習センター（3 施設）など、合計 29 施設があります。

支所（4 施設）については、各地区（豊川地区、上府中地区、下曾我地区、曾我地区）の中心部にそれぞれ整備されています。また、保育所（4 施設）・小学校（4 施設）についても同様に各地区にそれぞれ 1 施設ずつ整備されています。

市営住宅については、酒匂川の左岸の曾我地区に 3 施設、豊川地区に 1 施設整備されていま

す。

梅の里センターは、梅などの特産物を活かした農業振興の拠点施設として下曾我地区の中心部に整備されています。また、分館である曾我みのり館についても、近接する曾我地区内に、地域の農業振興の拠点施設として整備されています。

スポーツ施設として、上府中公園（小田原球場含む）、高田運動広場が上府中地区に整備されています。

なお、下曾我市民集会施設、豊川支所、上府中支所、曾我支所、市営住宅（4施設）、学校給食センター、生涯学習センター（3施設）については、築30年以上を経過していて施設の老朽化が進んでいます。また、市営住宅（4施設）を除く施設は、耐震化が行われていないことから、施設の安全性の確保が必要となっています。

3) 施設の利用状況

下曾我市民集会施設は、地域住民の集会施設として、年間で約8千人が利用しています。

支所のうち豊川支所、上府中支所、下曾我支所については、各地区の支所サービス施設として年間の窓口取扱件数で1万件以上の利用があります。なお、曾我支所については、他の支所・住民窓口等の施設と比較して窓口取扱件数が少なく、近年は減少傾向にあります。

保育所（4施設）については、それぞれ年間延べ500～1,300人の児童数があり、近年で大きな増減は生じていません。

梅の里センター、曾我みのり館については、梅などの地域の特産物を活かした農業振興の拠点及び貸室利用等で、年間で合計約6.6万人の来館者があり、近年も増加傾向にあります。

スポーツ施設（上府中公園（小田原球場含む）、高田運動広場）については、年間で多くの利用があり、利用者数も近年増加傾向にあります。

市営住宅については、桑原住宅（豊川地区）で101戸、春木住宅・籠場住宅・花里住宅（曾我地区）で合計240戸の入居があり、入居率も9割を超えています。

学校施設（千代小学校、下曾我小学校、曾我小学校、豊川小学校、千代中学校）は、地域全体として近年で大きな児童数・生徒数の増減は生じていませんが、曾我小学校については児童数が比較的少なく、近年減少傾向にあります。

生涯学習センター（豊川分館、上府中分館、曾我分館）については、年間でそれぞれ約1.2万、7千人、2千人の利用者があります。特に豊川分館は、分館の中でも利用者数が多く、近年も増加傾向にあります。なお、曾我分館は、年間利用者数が約2千人程度と少なく、貸室の稼働率も低くなっています。

表 川東北部地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
10-3	下曽我市民集会施設	S30.2	604	7,943	—	22.8	—
11-3	豊川支所	S29.8	101	33,531 (窓口取扱件数)	0.8%	—	—
11-4	上府中支所	S29.10	459	13,701 (窓口取扱件数)	-7.9%	—	—
11-5	下曽我支所	—	56	11,043 (窓口取扱件数)	—	—	—
11-7	曾我支所	S31.7	365	7,339 (窓口取扱件数)	-12.0%	—	—
21-1	下曽我保育園	S59.4	676	1,216 (児童数)	-6.5%	—	—
21-3	曾我保育園	H9.3	320	550 (児童数)	-2.7%	—	—
21-5	上府中保育園	H2.4	701	1,299 (児童数)	10.4%	—	—
21-6	豊川保育園	S62.4	589	891 (児童数)	6.7%	—	—
33-1	梅の里センター	H4.3	1,164	51,316 (来館者数)	20.7%	26.2	19.2%
33-2	曾我みのり館(梅の里センター一分館)	H11.4	346	14,953 (来館者数)	47.2%	28.8	35.6%
39	上府中公園	H2.10	(99,186)	758 (利用団体数)	4.4%	37.0	15.5%
44-11	市営桑原住宅	S37.5	4,168	101 (入居戸数)	0.0%	95.3 (入居率)	0.0%
44-16	市営春木住宅	S42.3	3,268	72 (入居戸数)	-6.5%	92.3 (入居率)	-6.5%
44-17	市営籠場住宅	S43.3	3,983	84 (入居戸数)	-4.5%	91.3 (入居率)	-4.5%
44-18	市営花里住宅	S44.3	3,700	84 (入居戸数)	-2.3%	92.3 (入居率)	-2.3%
49-6	西大友分署(消防署分署)	S38.3	156	—	—	—	—
50	水道局	S44.3	6,434	—	—	—	—
51-13	千代小学校	S45.3	5,116	666 (児童数)	1.5%	—	—
51-14	下曽我小学校	H1.1	5,928	196 (児童数)	3.7%	—	—
51-18	曾我小学校	S50.3	4,691	111 (児童数)	-11.9%	—	—
51-24	豊川小学校	S58.2	6,722	545 (児童数)	4.0%	—	—
52-6	千代中学校	S45.8	7,283	576 (生徒数)	3.2%	—	—
54	学校給食センター	S47.7	1,503	—	—	—	—
55-2	豊川学校給食共同調理場	S58.2	594	—	—	—	—
56-3	生涯学習センター豊川分館	S29.8	251	12,066	61.4%	24.7	31.7%
56-4	生涯学習センター上府中分館	S29.10	207	6,574	38.6%	25.3	40.6%
56-5	生涯学習センター曾我分館	S31.7	162	2,344	14.5%	6.1	10.4%
70-2	高田運動広場	—	(7,253)	28,799	34.2%	—	—

※下曽我市民集会施設は、平成 20 年 4 月供用開始のため、利用者数・稼働率の増減率は表記していない。

※下曽我支所は、梅の里センター内に設置されており、現在の施設における開設は平成 19 年 10 月からのため、窓口取扱件数の増減率は表記していない。

※豊川学校給食共同調理場は、豊川小学校内に設置されている。

4) 課題等

- 地域の窓口サービス機能を担っている豊川支所、上府中支所については、施設が老朽化しており耐震化も未実施であることから、施設の改修などの取組が必要となります。
- また、曾我支所については、地域の中でも人口減少の進行が特に予想される中で、窓口取扱 1 件当たりのコストが他の支所と比較して高いことが課題です。

【窓口取扱 1 件当たりのコスト】

支所・住民窓口全体(平均値)	1,164 円／年
曾我支所	2,974 円／年

- 市営住宅（桑原住宅、春木住宅、籠場住宅、花里住宅）については、入居率が 9 割を超えていますが、いずれの施設も築後 30 年以上を経過しており、今後施設の維持・修繕・更新のためのコストの増大が予想されることや、入居者の高齢化が進んでいることから、将来的なバリアフリー化等を見据えた対応が課題です。
- 曾我小学校については、児童数が少なく余裕教室など施設が有効利用されていないことや、曾我地区での将来的な少子化の進行も予想されることから、将来的な学区の再編等の方針も視野に入れた施設・サービスの見直しが課題です。

【児童 1 人当たりの小学校の延床面積】

小学校全体(平均値)	14.8 m ² ／人
曾我小学校	42.3 m ² ／人

- 生涯学習センター（豊川分館、上府中分館）については、他の分館と比較して多く利用されていますが、築後 30 年以上経過しており耐震化も未実施であることから、施設の改修などによりサービス機能を将来にわたって確保するための取組が課題です。
- 生涯学習センター曾我分館については、利用者数や貸室の稼働率がかなり低い水準で、施設も老朽化しており、曾我地区での将来的な人口減少も予想されることから、将来的な施設のあり方を見直しが課題です。

(5) 片浦地域

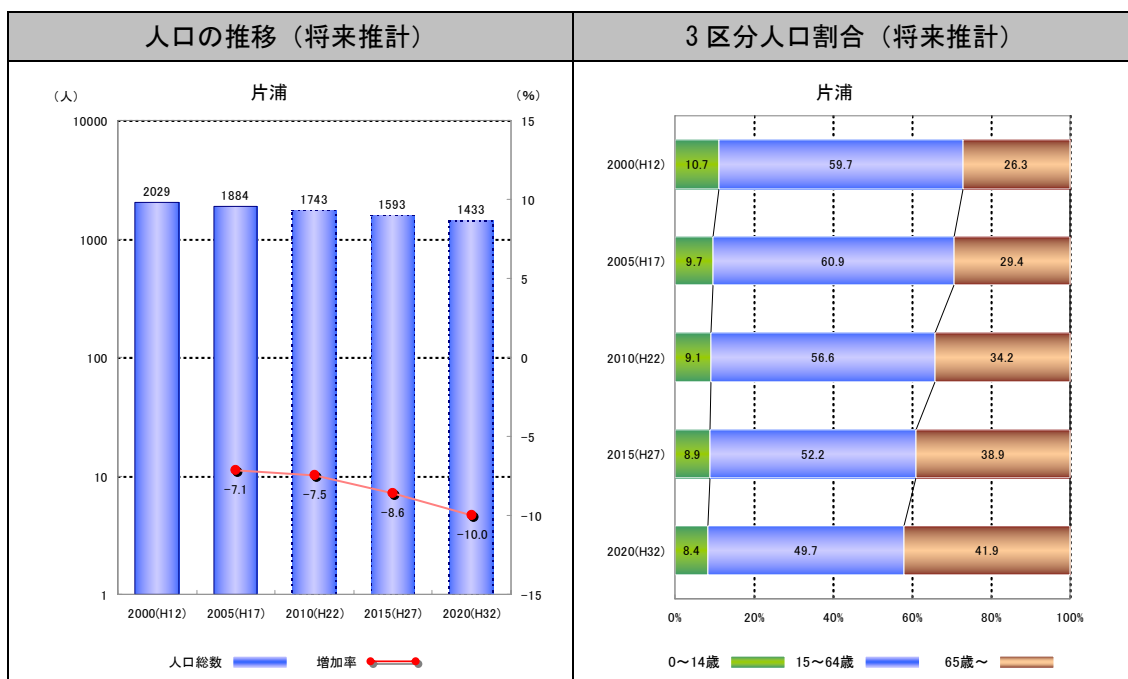
1) 人口の動向

片浦地域については、特に人口減少の傾向が著しくなっています（平成12年比で596人減（29.3%減））。

年少人口については、現在でも少ない割合となっている（平成H17年：9.7%）中で、将来的にはさらに少子化が進行することが予想されます（年少人口比率：8.4%（H32））。

老年人口については、特に高齢化が著しく進行することが予想されます（老年人口比率：26.3%（H12）→41.9%（H32））。

表 片浦地域の人口動向



2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、宿泊等施設、片浦支所、保育所（2施設）、片浦診療所、片浦小学校、片浦中学校、生涯学習センター片浦分館の合計8施設があります。

片浦支所、片浦診療所、生涯学習センター片浦分館など、地域の利用施設については、JR根府川駅近傍に整備されています。

保育所については、2箇所整備されていますが、石橋保育園は利用者の減少により休園中となっています。

なお、片浦支所、江之浦保育園など、築30年以上を経過している施設が4施設あり、耐震改修等による安全性の確保が必要となっています。

3) 施設の利用状況

片浦支所は、本地域の支所サービス施設として年間で約3千件の利用がありますが、他の支所・住民窓口等の施設と比較して、窓口取扱件数は1番少ない数となっています。

江之浦保育園は、児童数が169人となっており、平成18年度と比べて約7割に児童数が減

少しています。また、石橋保育園は、利用者の減少により平成 12 年度より休園中となっています。

片浦診療所は、地域の診療、健康診断・相談などで年間約 3 千人が利用しています。

片浦小学校、片浦中学校は、人口減少や少子化の進行等により児童・生徒数が少なくなっており、片浦中学校は平成 22 年 3 月に閉校しています。

生涯学習センター片浦分館は、他の生涯学習センターと比較して年間利用者数が約 500 人程度と少なく、貸室の稼働率も低くなっています。

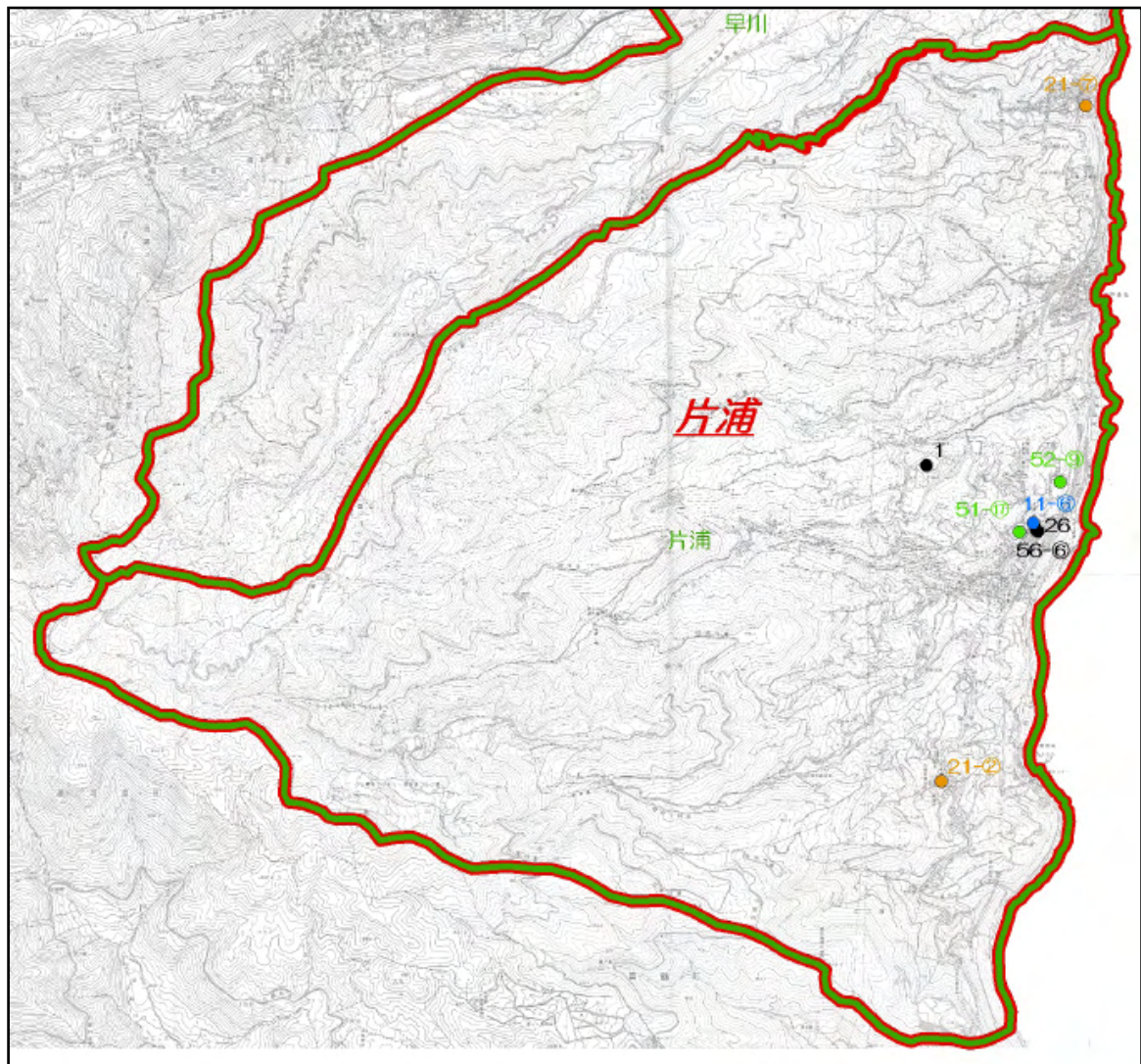


図 片浦地域の施設配置状況

表 片浦地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
1	宿泊等施設(ヒルトン小田原リゾートアンドスパ)	H9.10	54,628	—	—	—	
11-6	片浦支所	S28.3	399	3,332 (窓口取扱件数)	-1.4%	—	
21-2	江之浦保育園	S29.11	218	169 (児童数)	-30.2%	—	
21-7	石橋保育園	S47.3	370	(休園中)	—	—	
26	片浦診療所	S31.5	157	2,936 (患者数)	-6.2%	—	
51-17	片浦小学校	S57.6	3,957	68 (児童数)	-9.3%	—	
52-9	片浦中学校	S61.8	3,682	31 (生徒数)	-27.9%	—	
56-6	生涯学習センター片浦分館	—	116	546	-12.4%	3.9	-13.0%

※生涯学習センター片浦分館は、片浦支所内に設置されている。

4) 地域別の課題等

- 将来的にも地域の人口減少の進行が予想される中で、地域の窓口サービス機能を担っている片浦支所は、窓口取扱 1 件当たりのコストが他の支所と比較して一番高いことから、そのサービスを効率的に継続していくことが課題です。

【窓口取扱 1 件当たりのコスト】

支所・住民窓口全体(平均値)	1,164 円/年
片浦支所	4,614 円/年

- 地域での将来的な少子化の進行に伴う保育所や学校施設の見直しが必要です。休園中となっている石橋保育園、園児の減少している江之浦保育園や、閉校した片浦中学校について、用途転換等による施設の有効活用が必要です。また、児童数が市内で一番少なく、余裕教室が生じている片浦小学校について、将来的な学区の再編等の方針も視野に入れた施設・サービスの見直しが課題です。

【児童 1 人当たりの小学校の延床面積】

小学校全体(平均値)	14.8 ㎡/人
片浦小学校	58.1 ㎡/人

- 地域の医療サービス機関である片浦診療所については、サービスを継続しますが、施設の老朽化への対応が課題です。
- 生涯学習センター片浦分館については、利用者数や貸室の稼働率がかなり低い水準であり、施設も老朽化していることから、将来的な施設のあり方の見直しが課題です。

(6) 橘地域

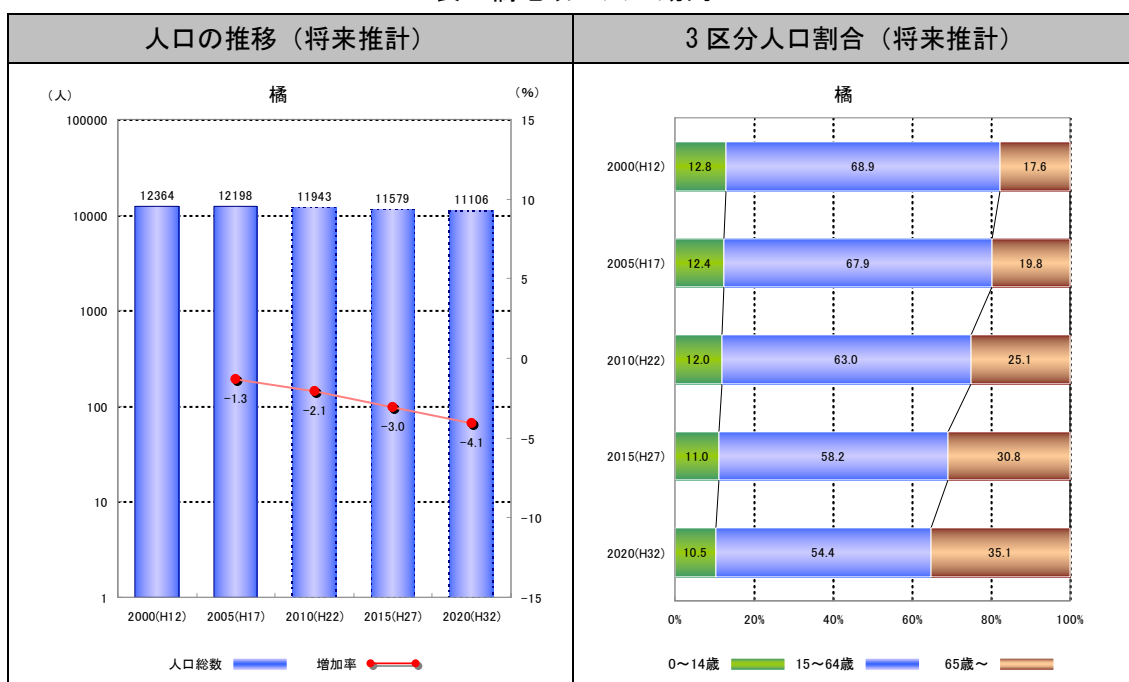
1) 人口の動向

橘地域については、市全体と同様に、将来的に緩やかな人口減少が予想されます（平成 12 年→平成 32 年で 1,258 人減（10.2%減））。

年少人口については、地域全体では少子化の進行が予想されます（年少人口比率 12.8%（H12）→10.5%（H32））。なお、橘南地区については、ほぼ横ばいとなっています（年少人口比率：12.5%（H12）→12.5%（H32））。

老年人口については、市全体と同様に今後の高齢化の進行が予想されます（老年人口比率 17.6%（H12）→35.1%（H32））。なお、地区別では特に橘北地区での高齢化率が高くなっています（老年人口比率：17.6%（H12）→37.0%（H32））。

表 橘地域の人口動向



2) 施設配置・整備の状況

地域内の公共施設として、橘タウンセンター「こゆるぎ」、橘支所、前羽福祉館、下中老人憩の家、小学校（2施設）、中学校（1施設）、幼稚園（2施設）、生涯学習センター（1施設）など、合計12施設があります。

橘タウンセンター「こゆるぎ」や前羽福祉館、下中老人憩の家などの地域集会施設は、橘南地区の北側、南側、橘北地区の中央部付近にそれぞれ点在しています。

小学校・幼稚園は、橘南地区・橘北地区にそれぞれ1箇所ずつ整備されており、中学校も1箇所整備されています。

なお、橘支所、前羽福祉館については、築30年以上を経過しており、耐震化が行われていないことから、安全性の確保が必要となっています。

3) 施設の利用状況

橘タウンセンター「こゆるぎ」は、年間で約6千人が利用していますが、他の地域センターと比較すると、利用者数は少ない状況となっています（川東タウンセンター「マロニエ」：約14.3万人（H20）、城北タウンセンター「いずみ」：約4.2万人（H20））。

橘支所は、年間で約2.7万件の利用があります。

前羽福祉館と下中老人憩の家は、高齢者を中心に集会や団体活動等でそれぞれ約5千人、1万人が利用しています。

学校施設（前羽小学校、下中小学校、橘中学校）は、近年で大きな児童数・生徒数の増減は生じていません。

幼稚園については、前羽幼稚園において園児数が少なくなっており、近年も園児が減少傾向にあります。

生涯学習センター橘分館は、年間利用者数が約3千人程度と少なく、貸室の稼働率も低くなっています。

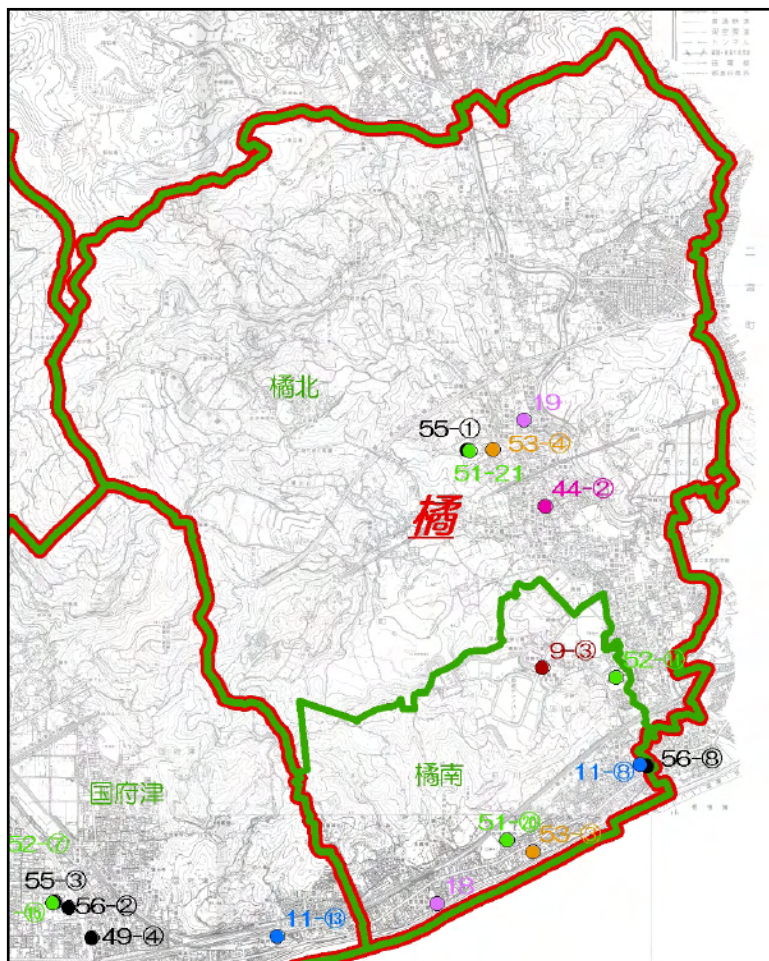


図 橋地域の施設配置状況

表 橋地域の施設概要

	施設名称	竣工年月	延床面積 (敷地面積) [㎡]	利用者数 (H20) [人/年]	H18 からの増減率	貸室全体の稼働率 (H20)[%]	H18 からの増減率
9-3	橋タウンセンター「こゆるぎ」	H19.8	1,050	5,989	—	20.7%	—
11-8	橋支所	S33.2	482	27,430 (窓口取扱件数)	-5.1%	—	—
18	前羽福祉館	S45.3	460	4,586	0.7%	21.9%	24.6%
19	下中老人憩の家	H8.11	257	10,478	28.8%	40.8%	34.5%
44-2	市営橋住宅	S47.3	1,396	28 (入居戸数)	7.7%	—	—
51-20	前羽小学校	S61.8	5,150	159 (児童数)	-4.2%	—	—
51-21	下中小学校	S57.3	6,579	441 (児童数)	-2.9%	—	—
52-11	橋中学校	S42.2	5,189	289 (生徒数)	6.3%	—	—
53-3	前羽幼稚園	S47.3	523	19 (園児数)	-34.5%	—	—
53-4	下中幼稚園	S53.3	1,005	73 (園児数)	-1.4%	—	—
55-1	橋学校給食共同調理場	S57.3	446	—	—	—	—
56-8	生涯学習センター橋分館	—	76	2,906	23.5%	16.0%	-1.8%

※橋タウンセンター「こゆるぎ」は、平成 19 年 8 月より供用開始のため、利用者数・稼働率の増減率は表記していない。

※橋学校給食共同調理場は、下中小学校内に設置されている。

※生涯学習センター橋分館は、橋支所内に設置されている。

4) 地域別の課題等

- 橋タウンセンター「こゆるぎ」は、橋地域の学習・文化・交流・行政窓口等のための拠点機能として平成19年8月に新設された施設ですが、他の地域センターよりも著しく利用者数が少ない状況です。よって、橋地区の地域コミュニティの向上を図るためにも、利便性の確保などによる施設の有効活用を図ることが課題です。
- 地域の窓口サービス機能を担っている橋支所については、窓口取扱件数も多い一方、施設が老朽化しており耐震化も未実施であることから、将来的には橋タウンセンター「こゆるぎ」に移転するなど、今後も継続的なサービス提供が必要です。
- 前羽福祉館と下中老人憩の家は、高齢者を中心に地域の集会施設として多くの人に利用されていますが、前羽福祉館は施設が老朽化しており耐震化も未実施であることから、地域での高齢化の進行も踏まえて、施設の改修などによりサービス機能を将来にわたって確保するための取組が課題となります。
- 前羽幼稚園については、地域での将来的な少子化の進行が予想される中で、園児数が他の公立幼稚園よりも少なく、園児1人当たりのコストが他の公立幼稚園と比較して一番高いことから、そのサービスを効率的に継続していくことが課題です。

【園児1人当たりのコスト】

幼稚園全体(平均値)	516,854 円/年
前羽幼稚園	988,080 円/年

- 生涯学習センター橋分館については、利用者数や貸室の稼働率がかなり低い水準であり、施設も老朽化していることから、橋支所の動向を踏まえ、施設やサービスの廃止を含めた機能の見直しを図っていくことが課題です。